

## 平成30年度第1回大和市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年5月21日（月） 11時00分～11時55分
- 2 場 所 大和市役所 5階 全員協議会室
- 3 出席者 市長 教育委員会（柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、石川委員、小松委員、森園委員）  
市職員（政策部長他9名）
- 4 傍聴人 1名
- 5 議 題 （1）平成30年度の教育大綱関連事業について
- 6 資 料 ・次第  
・【資料1】教育大綱関連事業一覧  
・【資料2】平成30年度の教育大綱関連事業について  
・【資料3】教育大綱

---

### 【会議要旨】

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題  
(1) 平成30年度の教育大綱関連事業について  
事務局及び所管部：（資料1～資料2について説明）

教育長：教育に関する事業や、教育大綱に関連する事業が数多くあるが、平成30年度においても新しい取り組みや充実していく取り組みなど、それぞれの目的を明確にしなが、大和市の教育が一層充実していくように各事業を推進していきたいと考えている。

教育委員：施策「子どもの健やかな成長に向けた切れ目のない支援を推進します」のつどいの広場事業・子育て支援施設管理運営事業に関して意見と質問をさせていただく。子育てに悩みはつきものであり、特に初めての子どもを育てる親が一人で悩みを抱えてしまうことは少なくない。その中で、悩み相談や、必要な情報を得られる場の提供というのは、非常に助けになるものである。両親ともに仕事をしている家庭が増えている中、社会的に待機児童の問題は注目されているが、本市では3年連続待機児童数ゼロと聞いており、これは素晴らしいことである。送迎ステーションでは幼稚園に通う前後の時間をみてもらえることで、幼稚園利用の幅が広がり、また、理由を問わず子どもを預けられる託児サービ

スによって、子育て中の親の負担軽減に繋がっていくと思う。本市では、さまざまな事業によって子育てしやすい街づくりがされていると感じている。

子育ての悩み相談については、専門的な意見を求められるケースがあると思うが、つどいの広場に配置されている「子育てアドバイザー」は専門資格を持つ人なのか。また、各こども〜るの実施場所として、大型の施設内だけでなく、市民に身近な地域で実施することを検討してみてもどうか、併せて伺う。

所管部 : 各こども〜るの実施にあたっては、子育ての知識と経験を有する子育てアドバイザーを常時2人配置し、うち1人は、保育士、管理栄養士などの有資格者であることとしており、子育てに関する不安や疑問などに丁寧に対応している。より高い専門性を有した相談につなげる必要がある場合には、平成29年度から開設した子育て何でも相談・応援センターの地域連携機能を活用して適切な相談機関へ紹介している。

また、現在のこども〜るの実施場所は、商業施設内2か所とつきみ野学習センターであるが、このうちつきみ野学習センターで実施している「こども〜るつきみ野」については、今年8月に開所予定の北部文化・スポーツ・子育てセンターへ移転することを予定している。身近な地域での対応としては、市内の保育所7園を地域育児センターとして位置づけ、保育所施設を開放しているほか、地域における子育て家庭のニーズを受け止め、専門的機能を活用して、育児に関する悩みを抱えている保護者等の相談にきめ細かに応じている。

市では、この他にも子育てに関する様々なサポートを実施しており、まごころ地域福祉センターの2階に設置されている子育て支援センターでは、他の親子と気軽に交流できるほか、子育てに関する情報提供や相談業務を行っている。加えて、今年4月に中央林間東急スクエア3階にオープンした子育て支援施設「きらきらぼし」においても一時預かり、送迎ステーションの機能に加え、子育てに関する相談を随時受け付けている。

教育委員 : 施策「子どもの健やかな成長に向けた切れ目のない支援を推進します」の保育所等乳児見守り安全対策事業について意見と質問をさせていただく。保育所等に預けていた乳児が亡くなるという悲しいニュースを目にすることがあり、子どもを預ける親の不安を取り除く手段の一つとして、ベビーセンサーの導入が一助になればと思う。導入することで安心するのではなく、引き続き人の目としても十分に注意を払ってもらいたい。

ベビーセンサーを導入する対象施設として、市内の保育施設をどの程度カバーすることになるのか伺う。

所管部 : ベビーセンサーは、認可外保育施設も含めて、0歳児を預かる全ての保育施設等に配布する予定である。

教育委員：施策「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」の放課後児童クラブ施設整備事業に関して、意見と質問をさせていただく。児童クラブでは、雨などで外に出られない日は、大変混みあっていることもあるようだが、一方で、高学年になると、登録をしているのに利用はしていない児童もいると聞くので、状況に応じた整備を進めてもらうことを期待する。

平成30年度は、緑野小学校内に施設を建設するということだが、どのような理由から緑野小学校としているのか。現在の状況として、優先度が高いということではどうか。

所管部：緑野小学校では、平成31年度以降、児童クラブ在籍児童数のさらなる増加により、居室スペースの不足が想定されている。現在は、既存の児童クラブ専用プレハブ施設の定員を超えた分の児童については、学校から放課後の時間帯に多目的室等を借用することで受入れをしているが、平成31年度以降については、多目的室を小学校の普通教室として使用する予定のため、児童クラブ居室としての使用ができなくなる見込みである。このため、平成30年度当初予算で緑野小学校敷地内に新たな児童クラブ専用プレハブ施設を建設し、平成31年4月より使用を開始することで、待機児童を出さないようにしたい考えである。今後、緑野小学校以外に居室スペースの不足が想定される小学校についても、関係機関と調整を図りつつ、施設整備を含め様々な方法で対応を検討していく。

教育委員：施策「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」に関して意見を述べさせていただく。

外国人児童生徒教育推進事業について、日本語に課題を抱えている子どもが、他の子どもと同じ授業を受けても、理解には差がでると思う。このことは、子どもの学力の定着に大きな影響を与えると同時に、将来に向けた進路にも関わってくるものである。そのように考えると、学習を理解する支援、日本語を理解する支援は、とても大事なことであり、平成30年度から日本語指導巡回教員の新設等によって、本事業の充実が図られることで、一人ひとりの教育的ニーズに、より応えていけるようになると思う。

学力向上対策推進事業に関して、小学校で行っている「放課後寺子屋やまと」「夏休み寺子屋」については、多くの子どもたちの参加があり、基礎学力や学習習慣の定着につながっており、さらに中学3年生に対する長期休業中の学習支援など、中学校における支援も充実させている。支援にあたっては、効果的に実施できるよう目的意識を持ちながら進めていきたい。また、若手教員の指導力を養うことと併せて、学習指導要領が新しくなることにより、今までには無かった教科が加わり、新たな学習の指導が求められるため、ベテラン教員を含めて指導力の向上について考えていきたい。

プログラミング教育支援事業に関して、私が子どもの頃の社会と、現在の社会を比べると、各家庭に便利な家電が充実し、家事の負担が減ったり、携帯電話やスマートフォンが普及したことで、家族や友人とのコミュニケーションの取り方が変わったりと、身近なところでも変化を感じている。さらに今後はAIの発展により、社会が一層大きく変わり、今まで人が行ってきた多くのことを、AIが代わりに行うようになると言われている。次期学習指導要領では、プログラミング教育が小学校で必修になることから、子どもたちが、これからの社会に必要な力をしっかり身に付けられるよう、教員への支援を図っていきたい。

教育委員：施策「国際社会での活躍の礎となる英語力や国際感覚を育みます」の英語教育推進事業に関して意見を述べさせていただく。国際色豊かな本市の地域性もふまえて、国際社会におけるコミュニケーション能力の育成が求められている。また、2020年に開催される東京オリンピックでは、海外からいらっしゃる方と、英語でコミュニケーションをとるといったことが日本各地で行われると思う。平成32年度に予定されている小学校での英語の教科化に向けて、本市では、平成28年度から3カ年の英語教育推進事業により、先進的な取り組みを行っており、今年度は最終年度となるため、今後の授業でいかに成果を生かしていくのかということを重視しながら、子どもたちが生きた英語を身に付けられる教育にしたい。

所管部：外国人児童生徒教育推進事業については、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに的確に応えていけるように努め、学力向上対策推進事業については、必要な学習支援を効果的に実施するとともに、教員の指導力向上にも力を注いでいく。プログラミング教育支援事業については、子どもたちが必要な力を身につけられるよう、教員への支援をしっかりと行っていく。英語教育推進事業については、子どもたちが生きた英語を身につけ、積極的にコミュニケーションを図れるよう取り組んでいきたいと考えている。

教育委員：施策「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」の林間学習センター改修事業に関して意見を述べさせていただく。本市では、特別支援学級に在籍する子どもや、通常学級に在籍はしているものの、情緒面や行動面に課題が見られる子どもが増加している。支援が必要な子どもには、一人ひとりに、さまざまな特性やニーズがあり、教員に高い専門性が求められている。平成31年度には、情緒障がい等の子どものための通級指導教室などを備えた、特別支援教育の中心的な施設を開設する予定であり、より充実した支援体制になるよう、施設改修を含め、運営面や、人的な面など、必要な検討、調整といった準備を着実に行っていきたい。

教育委員：施策「創意に満ちた活力ある教育環境を整えます」の北大和小学校増築事業に関して意見を述べさせていただく。社会的に少子化傾向にある中、神奈川県内においても、自治体によっては、児童生徒数の減少により、小学校、中学校の統廃合を行った、ということを知っている。そのような中、本市では北部地域において、児童生徒数が増加の傾向にあり、小学校で受け入れる人数が増えるという点での課題はあると思うが、子どもたちが我が母校として、自分の生まれ育った地域の学校に通うことは、子ども、家庭、地域において望まれることだと捉えているため、北大和小学校の増築を行い、子どもたちの教育環境の整備を進めていきたい。

教育委員：施策「いじめ・不登校問題の解消に真摯に取り組めます」のいじめ等対策事業に関して意見を述べさせていただく。いじめの対策については、基本中の基本の取り組みであり、早期に発見するということが非常に重要である。学校では、いじめにつながる可能性のある様子なども積極的に捉え、重篤にならないよう、早期対応に努めているところである。教育委員会としては、いじめを匿名で通報・相談できるアプリを導入したが、全ての子どもが、自分から相談したり、周りが気づいて通報したり、といったことができるとは限らない。導入したアプリによって、早期発見や今まで気づくことが難しかったケース等の解決につながることを期待するとともに、普段子どもたちと接している教員が、子どものSOSに気づかないということがないように、常に気を配っていることが大事であると強く申し上げておく。本日、報道で教育委員会へのいじめの報告を1か月放置していた他市中学校の事例を耳にしたが、こんなことはあってはならない。

教育委員：施策「時代に即した先進的な情報教育を実施します」の教育に関する調査研究・研修事業に関して意見を述べさせていただく。教育委員会では、教員の指導力向上のため、さまざまな研究・研修を行っているが、平成30年度から新たに、実践力向上研修として、教員が自ら課題を捉え、解決していくという研修を実施する。各学校で抱える課題に対して成果を発揮してってもらいたいと考えている。また、次期学習指導要領により、新たな教科、学習が始まるため、若手教員からベテランの教員まで、世代や経験によらず互いにサポートし合いながら、時代に即したきめ細かな指導力を身に付けてもらいたいと強く感じている。

所管部：林間学習センター改修事業については、(仮称)大和市特別支援教育センターの平成31年度開設に向けて、準備を進めていきたい。北大和小学校増築事業については、教育環境の整備を安全に進め、いじめ等対策事業については、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、さまざまな面で配慮をしていく考えである。教育に関する調査研究・研修事業については、本事業を通じて、教職員の資質と指導力の更なる向上を目指していきたい。

教育委員：施策「健康に関する教育を推進します」の母子保健相談指導事業に関して意見と質問をさせていただく。スマートフォン等の普及により、特に若い世代の方の情報収集や情報管理の仕方が変わったと感じており、子育て支援情報や予防接種情報を提供するサイト「らくらく予防接種」を使った支援は、今の時代にあったものとして評価している。健診時に育児相談を行っていると思うが、他にも予防接種などのさまざまな場面で、育児相談の機会を増やすということも、悩みを抱える母親達の助けになると思う。

働く女性が増え、父親、母親を問わず育児に携わることが求められる中、まだまだ育児の中心は母親で、父親は「育児に参加する。」という一歩ひいた見られ方をすることが多い。直接的な育児だけでなく、家事を分担するだけでも母親の負担は軽くなると思う。その点で、「イクメン講座」というのは今の時代に必要なものと思うが、どのような内容を行っているのか伺う。

所管部：「イクメン講座」は、父親になる男性に育児の心構えや楽しさを知ってもらい、夫婦で育児に取り組むことの大切さについて考えることを目的に、妊婦や出産後の産婦、その夫を対象としたワークショップ型の両親学級として実施している。内容としては、妊娠シミュレーションを用いた妊婦疑似体験や、新生児の抱っこ体験のほか、「家事や育児は誰が担うべきか」、「パートナーのために理解、サポートしたいと思うこと」、「パートナーに理解・サポートしてほしいと思うこと」などを題材に、夫婦が互いに理解しあえる、コミュニケーションについての気づき、体験ができるよう、グループワークを実施している。また「赤ちゃんの一日の泣く時間」や「愛情ホルモンといわれるオキシトシンの分泌」、「産後うつ発症の理解や共感」、「揺さぶられ症候群予防」についての理解、啓発を行っている。

教育委員：施策「あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します」の図書館管理運営事業・生涯学習センター管理運営事業に関して、意見と質問をさせていただく。教育委員会定例会でも審議したことだが、中央林間図書館が開館し、3館そろったことで、大和市の図書館は一層充実したものと感じており、各館が地域ごとの特色を出しながら連携をしていくことで、運営面でも利用者のニーズに応じていてもらいたい。また、北部文化・スポーツ・子育てセンターについては、その名前のおり、市民の多様な文化的ニーズに対して、北部における中心施設になっていくことを期待している。

中央林間図書館の開館にあたって視察を行い、開放的な雰囲気ですぐに利用できる図書館であると感じているが、開館後の利用状況を伺う。

所管部：中央林間図書館においては、当初想定していたビジネスパーソンはもとより、家族連れやご高齢のお一人様など、幅広い年齢層の方にご利用いただいている。開館後の1ヶ月間において、貸出人数は14,960人、貸出冊数は37,008冊

となり、機能移転前の林間学習センター図書室の約3倍となっている。新規登録者数は、3,315人となり、うち市内の登録者数が3分の2を占めることから、新たな図書館利用者を開拓できたものと推察している。

教育委員：施策「あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します」の（仮称）大和市版オリンピック2018開催事業に関して意見を述べさせていただく。参加選手の募集について広く周知して、各競技の経験者や我こそはという市民の大勢の参加のもと、盛り上がることを期待している。また、それぞれの競技に長けた各地域の方にもご参加いただき、自分の住んでいる地域の選手を応援するというだけでも盛り上がっていただきたいと考えている。

教育委員：先ほど触れたいじめに関する他市中学校の報道については、強い憤りを感じており、改めて、本市における現場の教員にはそのようなことがないように、教育委員会としてもこの問題に真摯に向き合って指導していくことを申し上げたい。救うべきである子どもたちに光明が差すような教育環境としていきたいと強く感じている。

平成30年度の教育大綱関連事業については、前年度同様、多くの予算を確保していただき、教育委員会として大変感謝している。これからの社会は、大きく変化し予測が難しいと言われており、子どもたちが大人になった頃には、今ある仕事の半分は、新たなものになっているとも言われている。学校教育についても、これからの社会を見据えた内容に変わってくると思われるため、こうした状況をふまえながら、行っていることを振り返り、検証しつつ各事業を進めることで、大和の子どもたちが成長し、新しい社会の中で活躍できる力を身に付けられるよう取り組んでいきたい。

#### 4 その他

#### 5 閉会